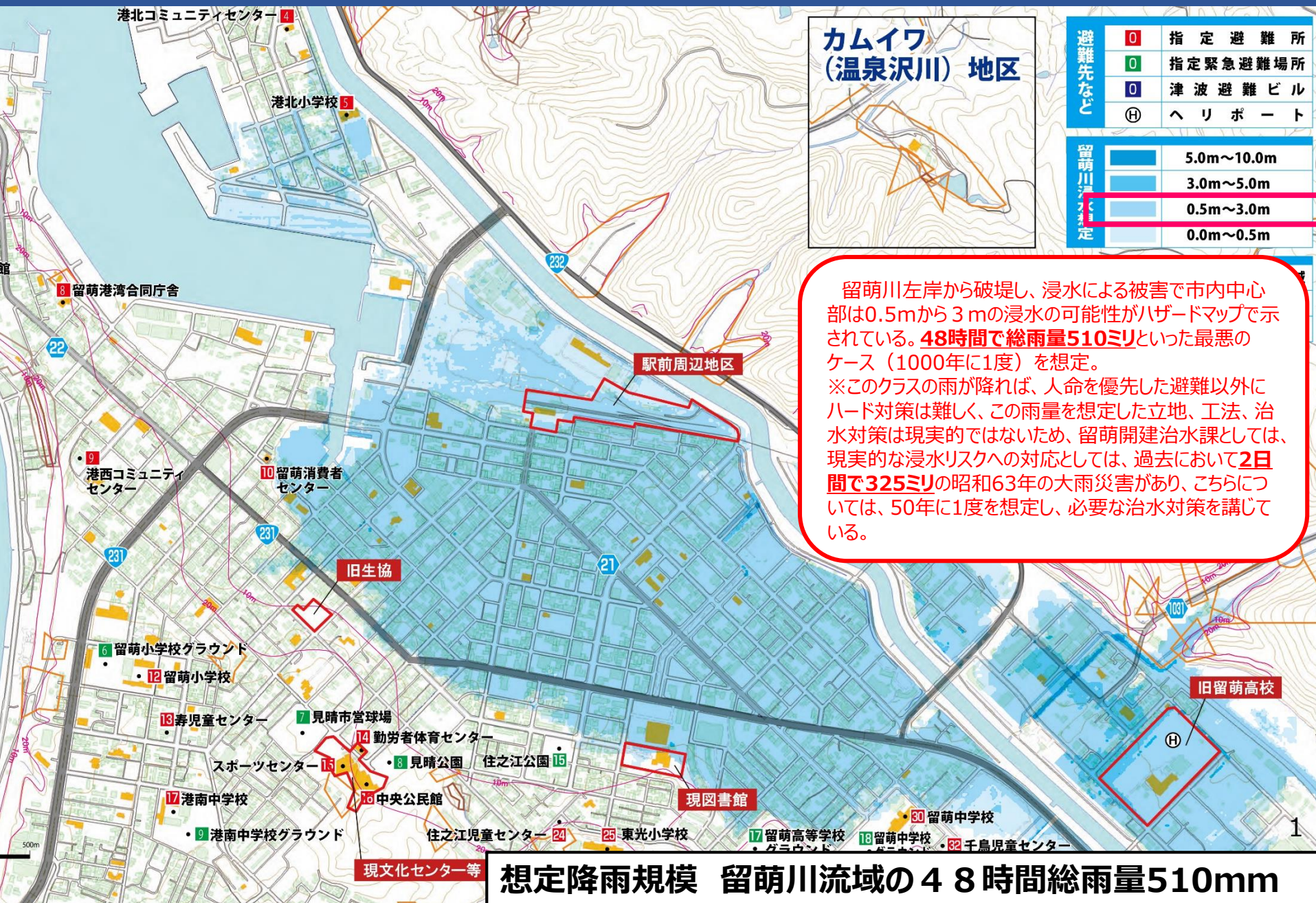


洪水浸水想定（留萌市ハザードマップ）

2021.11.1 公共施設整備検討会議

資料2



地点別浸水シミュレーション（浸水ナビ）

地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）

中心緯度 43.942112 経度 141.651921 移動 度分秒



- ・破堤点（高砂周辺）から留萌駅周辺までの浸水を想定
- ・破堤から約12時間後→最大浸水深約**1.3m**
- ・最大浸水深～21時間後に0.01mまで低下

*折れ線グラフの破線部分はデータがないため推定となります。
*グラフ領域内でマウスホイール操作するとグラフの拡大・縮小ができます。
*拡大したグラフをマウスドラッグ操作するとグラフ表示内容の移動ができます。
指定地点の標高(T.P.) 3.4m

想定降雨規模 留萌川流域の4 8 時間総雨量510mm

地点別浸水シミュレーション（浸水ナビ）



地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）

中心緯度 43.941402

経度 141.653552

移動

度分秒

時間: 12時間後

浸水深の変化を見たい位置を指定してください



浸水シミュレーショングラフ
(BP003: 留萌川P2.20_左岸_破堤)



- ・破堤点（高砂周辺）から留萌駅周辺までの浸水を想定
- ・破堤から約12時間後→最大浸水深約0.6m
- ・最大浸水深～18時間後に0.01mまで低下

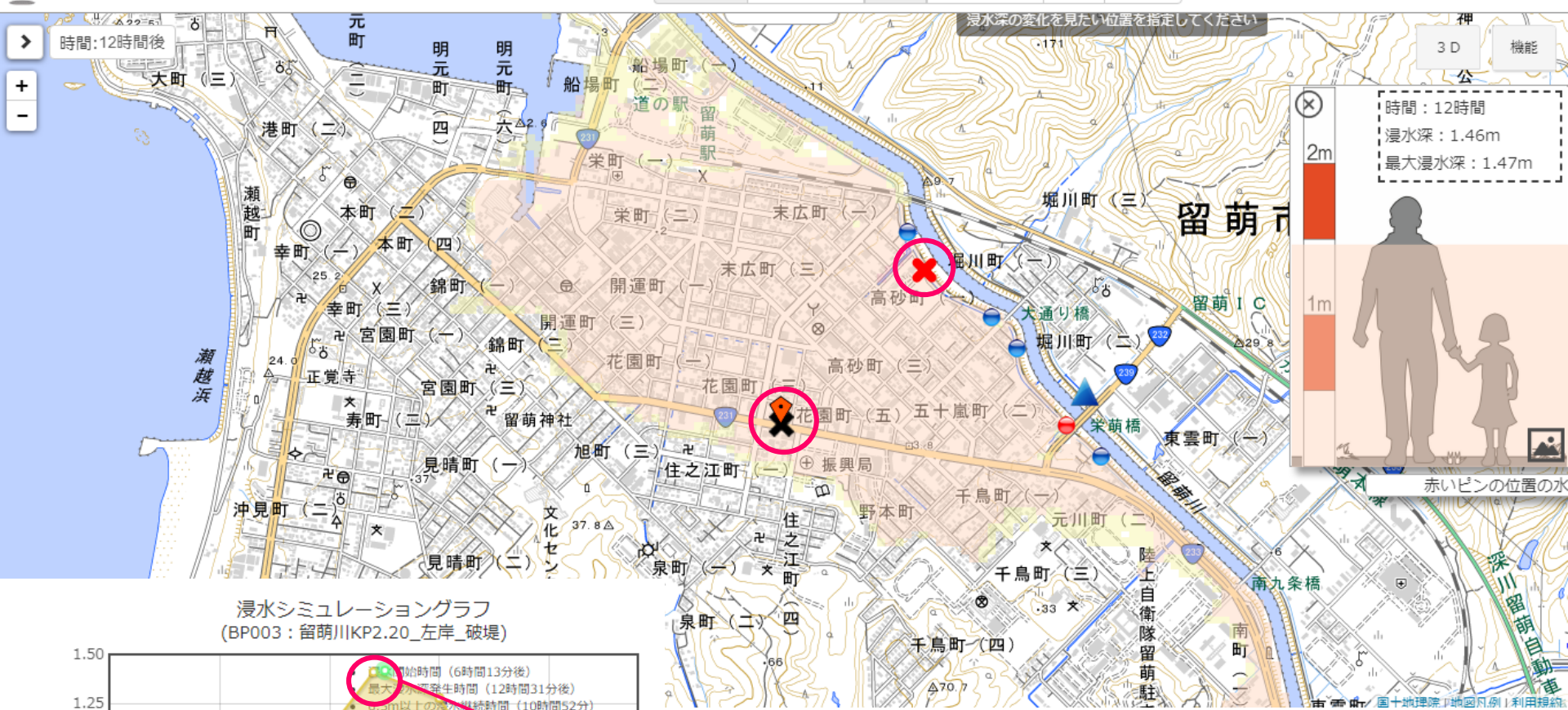
現在、留萌開建では本総雨量にける浸水リスクのさらなる逡減を図るため、必要な治水工事を実施。（現在、留萌港河口部の道流提整備により、大雨時の河川増水の回避と破堤リスクを逡減し、さらなる減災対策を進める予定。）

*折れ線グラフの破線部分はデータがないため推定となります。
*グラフ領域内でマウスホイール操作するとグラフの拡大・縮小ができます。
*拡大したグラフをマウスドラッグ操作するとグラフ表示内容の移動ができます。
指定地点の標高(T.P.) 4.3m

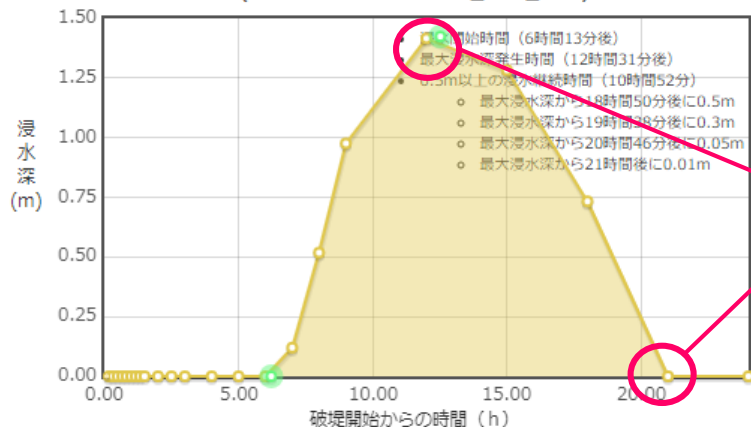
想定降雨規模 留萌川流域の2日間総雨量325mm

地点別浸水シミュレーション（浸水ナビ）

地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ） 中心緯度 43.937415 経度 141.654539 移動 度分秒



浸水シミュレーショングラフ
(BP003: 留萌川KP2.20_左岸_破堤)

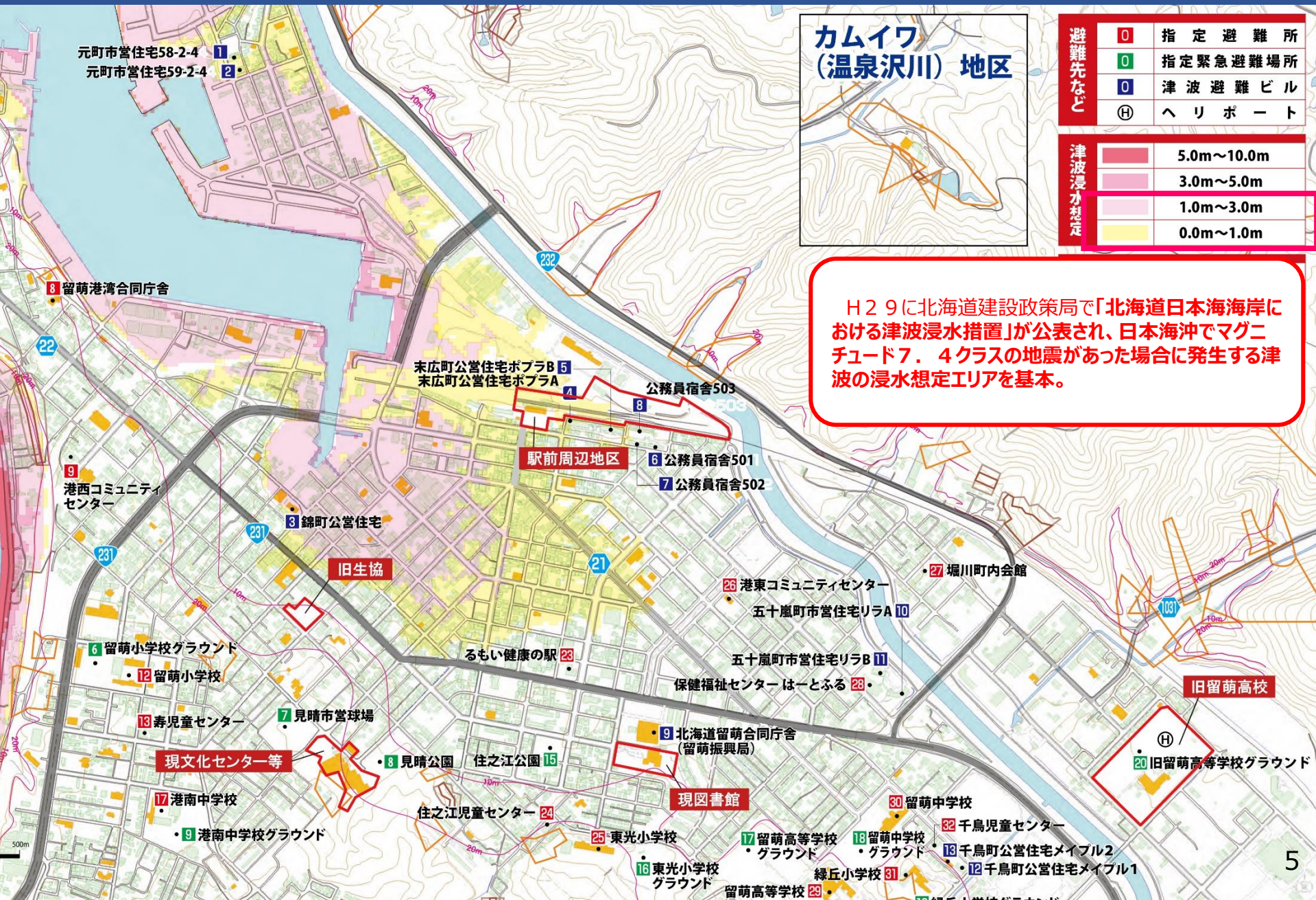


- ・破堤点（高砂周辺）から留萌合同庁舎までの浸水を想定
- ・破堤から約12時間後→最大浸水深約1.4m
- ・最大浸水深～21時間後に0.01mまで低下

* 折れ線グラフの破線部分はデータがないため推定となります。
* グラフ領域内でマウスホイール操作するとグラフの拡大・縮小ができます。
* 拡大したグラフをマウスドラッグ操作するとグラフ表示内容の移動ができます。
指定地点の標高(T.P.) 4.2m

想定降雨規模 留萌川流域の48時間総雨量510mm

津波浸水想定（留萌市ハザードマップ）



津波浸水想定（重ねるハザードマップ）

重ねるハザードマップ ～自由にリスク情報を調べる～

例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

使い方

利用規約

ホーム



・留萌沖でマグニチュード7.4の地震により津波が発生した場合は、沿岸部から栄町、開運町に至るまで同程度（1m～3m）の浸水が想定されている。

・過去における留萌沿岸、近隣での震源による地震発生状況

- ・M43.9 留萌沖 マグニチュード5.9、推定震度4（留萌・羽幌／住宅損壊3）
- ・T7. 留萌沖 マグニチュード6.0、推定震度5（鬼鹿／軽微）
- ・S15.8 北海道積丹半島沖 マグニチュード7.0、震度4（留萌・羽幌・倶知安など／津波発生 天塩、羽幌2m）
- ・S22.11 北海道西方沖 マグニチュード6.7、震度4（留萌・羽幌・倶知安など／津波発生 羽幌70cm）
- ・S34.11 北海道西方沖 マグニチュード6.2、震度3（留萌／変電施設など軽微）
- ・S58.5 日本海中部 マグニチュード7.7、震度5（秋田／津波発生 能代10m以上）

・その他

- ・H18.11 千島列島 マグニチュード8.1（留萌地方を含む北海道日本海北部に「津波注意報」発表 高い所で0.5m 特に被害なし）
- ・H19. 1 千島列島 マグニチュード8.3（留萌地方を含む北海道日本海北部に「津波注意報」発表 高い所で0.5m 特に被害なし）

浸水リスクを踏まえた対応

- 留萌川における治水対策
- 建築時における浸水域や浸水深を想定した工法への対応
- 浸水深を想定した、街なかにおける一時避難機能ビル機能
- 市強靱化計画における、浸水想定リスクを前提とした行動理解
- 防災まちづくりの視点から、被害を減少させるための対策（確実な避難、街なかにおける行動基準、ハザードマップの正しい理解）



沿岸部と河川に隣接する「まちなか」においては、災害リスクをゼロにすることは難しいです。しかしながら、治水対策や建築工法、想定した高さの確保や、電算室等心臓部の配置場所など、ハード面での「災害リスクへの対応」のほか、「避難体制、行動基準」「市民意識の醸成」などのソフト面での両輪で対策を講じることにより、「まちなか」での公共施設の利便性、立地の優位性を、市民と理解しながら進めることが重要